



TAKARA
& COMPANY

東証プライム 7921

株式会社TAKARA & COMPANY

中期経営計画 2029

第90期 | 2027年5月期 → 第92期 | 2029年5月期

目次

1. 当社が目指すこと
2. 中期経営計画2026の振り返り
3. 成長戦略と重点ビジネス
4. 財務／非財務目標(KPI)
5. 資本政策と株主還元



中期経営計画 2029

01

当社が目指すこと



TAKARA
& COMPANY

Tech Driven Value for Growth

私たちは「社会の公器」として、
全てのステークホルダーの価値向上を目指し、
資本市場にとってなくてはならない
企業であり続けることを目指します



Purpose

当社グループは、あらゆる企業の情報開示及び資本市場の健全な発展に寄与し、
言語の壁を超越して社会と資本市場の信頼基盤を造り続けます

Vision2030

当社グループは、ディスクロージャー&IR領域でOnly oneの
Tech Driven型ディスクロージャー&IR企業群を目指し、
代替の効かない唯一無二のパートナーとしての地位を確立します



02

中期経営計画2026の振り返り

02 中期経営計画2026の振り返り

TAKARA & COMPANY連結業績

単位：億円

	2024.5	2025.5	2026.5	
	実績	実績	目標	実績
売上高	292	296	330	311
営業利益	42	40	44	44
営業利益率	14.5%	13.6%	13.3%	14.2%
ROE	11.5%	14.1%※	10.0%	10.8%

事業別売上高構成比

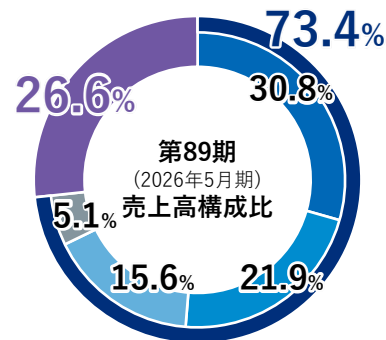
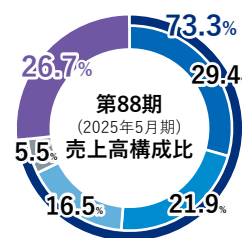
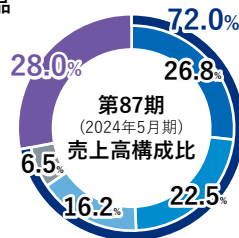
■ ディスクロージャー関連事業 ■ 通訳・翻訳事業

■ 金融商品取引法関連製品

■ 会社法関連製品

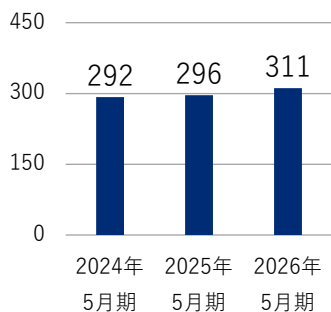
■ IR関連製品

■ その他製品



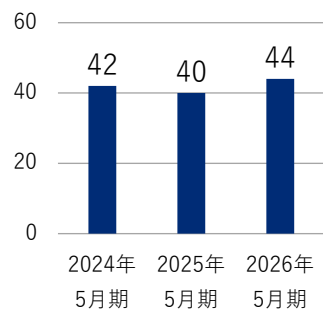
売上高

単位：億円



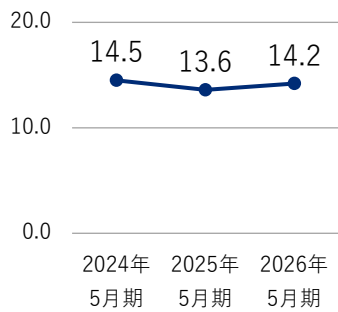
営業利益

単位：億円



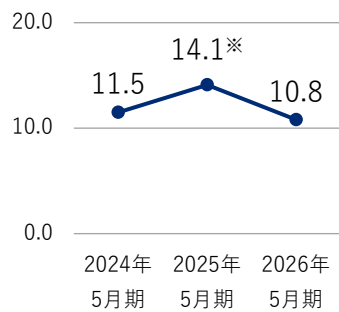
営業利益率

単位：%



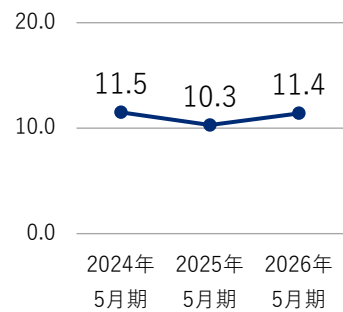
ROE

単位：%

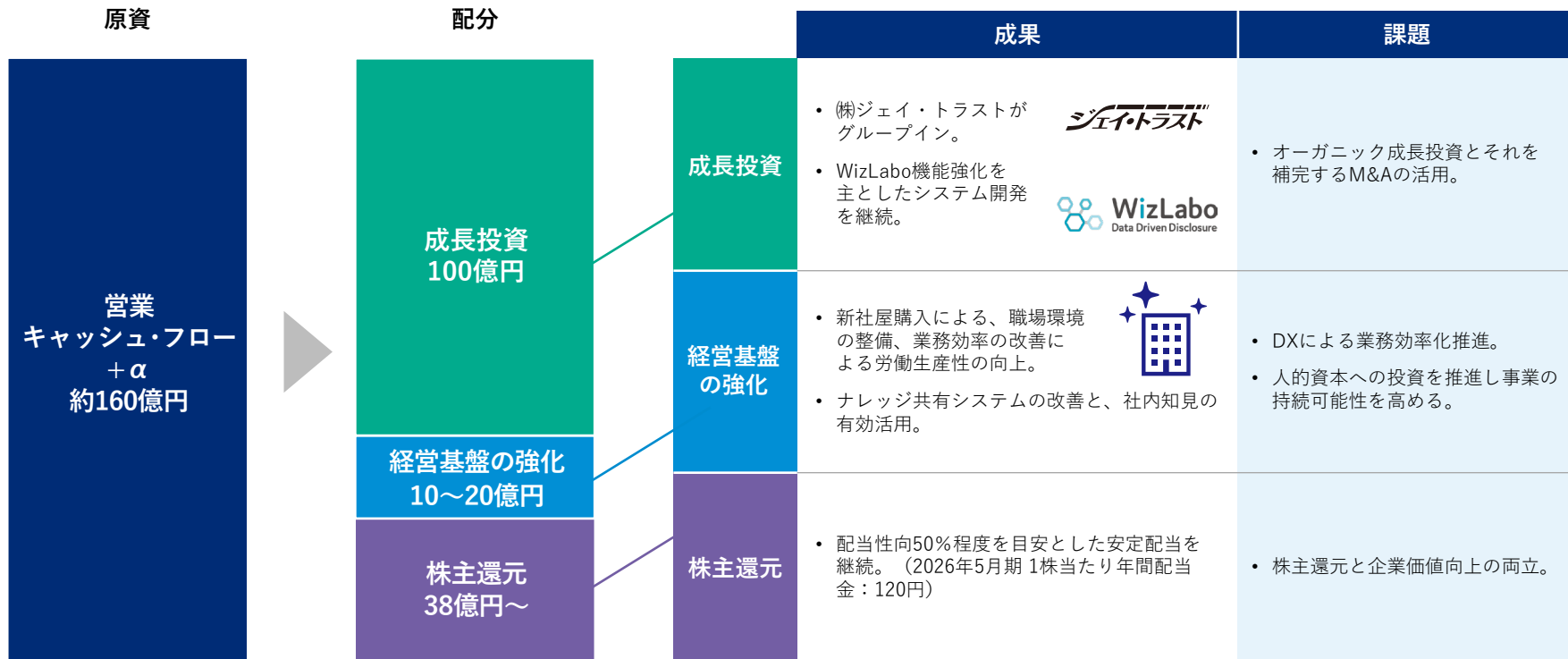


PER

単位：倍



キャピタル・アロケーション～中期経営計画2024-2026計画



03

成長戦略と重点ビジネス

「Tech Driven Disclosure」の顧客体験を提供、「唯一無二のパートナー」へ

中核事業WizLaboの進化

WizLaboは効率化のみならず高い正確性と開示品質を実現しており、「SaaSの死」とは一線を画します。

WizLabo2.0の本格稼働

- 財務/非財務データを統合管理する「次世代開示プラットフォーム」へ進化
- API、監査法人向けツール、AI連携等の強化によるユーザー利便性の創出及びAI機能の実装加速

WizLabo Synapseによる成長加速

- SSBJ対応に伴う、データ収集から開示までのプロセス統合
- CO2可視化ツールとのAPI連携



ディスクロージャー（金商法、会社法等）関連事業

WizLaboのシステム優位性やTechの活用を推進し、市場シェアの獲得とブランド地位の確立を図ります。



- WizLaboの圧倒的なシステム優位性を活かした営業展開
- コンテンツ、コンサルティングビジネスへの進化、深化
- ST（セキュリティ・トークン）等、新種金融商品への対応力強化及び拡大
- 外国企業のファイナンスに係るディスクロージャー事業の強化
- 急増するプロマーケット上場企業に対する支援事業者としてシェア向上
- 全分野におけるAI含むTechを活用した商品提供力、顧客支援の向上
- パイオニアとしての優位性を強固にするブランディング戦略の実行

ジェイ・トラスト

WizLabo
SR.QA



ディスクロージャー&IR翻訳事業

最新AI技術を活用し圧倒的なスピード・高品質・低価格を同時に実現します。

- WizLaboの翻訳関連機能を拡張し、翻訳作業に止まらず開示プロセス全体のシームレスな効率化を実現
- 高度なAI翻訳エンジンを搭載した顧客提供型の翻訳支援ツールWizLabo AI Translateの販売を拡大



アウトソーシング・コンサルティング事業

多様化する開示・決算ニーズに対し、コンサルティング及びBPO領域の強化により事業を拡大します。

- IPO企業向け、資産運用会社向け、株主総会プロセスなどに対するBPO対応力の強化、拡充
- AI実装によるコンサルティング付加価値、サポート体制、商品供給力の強化
- コンプライアンス関連事業の強化、拡充



IR・SR関連事業

ブランディング支援を強化し、AIを組み合わせた高付加価値ソリューションの提供を目指します。

- 統合報告書制作支援の優位な市場ポジションの一層の拡大、ソリューション範囲の拡充
- 投資家、上場企業をつなぐ対話型IR商品の強化、拡充
- WEB、動画、メディア、SNS対応力向上と合わせ、中核となるブランディング支援のもと商品ラインアップを拡充、販売を拡大
- AIOを踏まえた情報発信商材の拡充や、AIを活用した高付加価値ソリューションの提供を検討、商品化



JI
Japanese Investor

JIOnline
Japanese Investor
デジタルニュースインベスター



03-2 グループ連携&シナジー



03-2 グループ連携&シナジー

	プラットフォーム・ICT		法令順守・クリエイティブ
金融商品 取引法	 WizLabo Data Driven Disclosure 「WizLabo」 統合型ビジネスレポートシステム  WizLabo Synapse Disclosure Neural Network 「WizLabo Synapse」 財務・非財務情報統合プラットフォーム  WizLabo Box 「WizLabo Box」 注記データ 管理オプション  WizLabo Adapter 「WizLabo Adapter」 Office連携機能	AIチェックオプション WizLabo AI記載チェック WizLabo AI数値チェック	■ 有価証券報告書等 ■ コンプライアンス関連事業 ■ サステナ情報開示コンサル ■ 適時開示サポート ■ 組織再編開示コンサル 等  宝印刷  TSS コンサルティング  仙台宝印刷株式会社  ジュリオ (アライアンス先)  ASK TOTAL ADDRESS & SUPPORTING KNOWLEDGE
会社法	 WizLabo SR.QA 「WizLabo SR.QA」 株主総会向け想定問答自動 作成サービス 	「ネットで総会」 バーチャルオンリー型 やオンデマンド型等幅 広い株主総会の実施 形態に対応	■ 招集通知等 ■ 株主総会PPT ■ 株主総会動画配信 ■ バーチャル総会対応 ■ 総会想定問答AIサポート 等  宝印刷  EXAWIZARDS (アライアンス先)
IR	 WizLabo Library 「WizLabo Library」 適時開示情報が自社 IRサイトに自動反映 	「ネットで株通」 株主通信の内容が各種 デバイスで閲覧可能	■ 統合報告書 ■ 株主通信 ■ WEB制作 ■ Jiオンライン (個人投資家向け情報発信サイト) 等  宝印刷  E2  株式会社ErudAite (アライアンス先)
通訳・ 翻訳	 SIMUL × interprefy 「interprefy AI」 「interprefy NOW」 遠隔同時通訳、AI通訳サービス  SIMULwiz 「SIMULwiz」 AI翻訳プラットフォーム		■ 通訳・翻訳 ■ 機材、派遣事業 ■ ローカライズ（地域化翻訳） ■ トランスクリエーション (訴求力のある翻訳)  SIMUL  TOIN  TRANSLASIA Translating Asia

更なるグループ一体感の醸成による企業価値向上の実現

ディスクロージャー関連事業

金融商品取引法関連製品

グループ一体となったWizLabo開発強化

- WizLabo2.0、WizLabo Synapse等開発の更なる強化、非財務情報管理を強力にサポート



コンサルティング領域の拡大

- 大型IPO案件獲得体制の強化、コンプライアンス関連事業の拡大
- 開示決算アウトソーシングのリソース拡充



IR関連製品

Web事業サービス領域の拡大

- Web制作にAIOを付加。IRサイトを構造化するサービス展開を実現



新事業領域の拡大

- Web、動画、ブランディング等を強化



通訳・翻訳事業

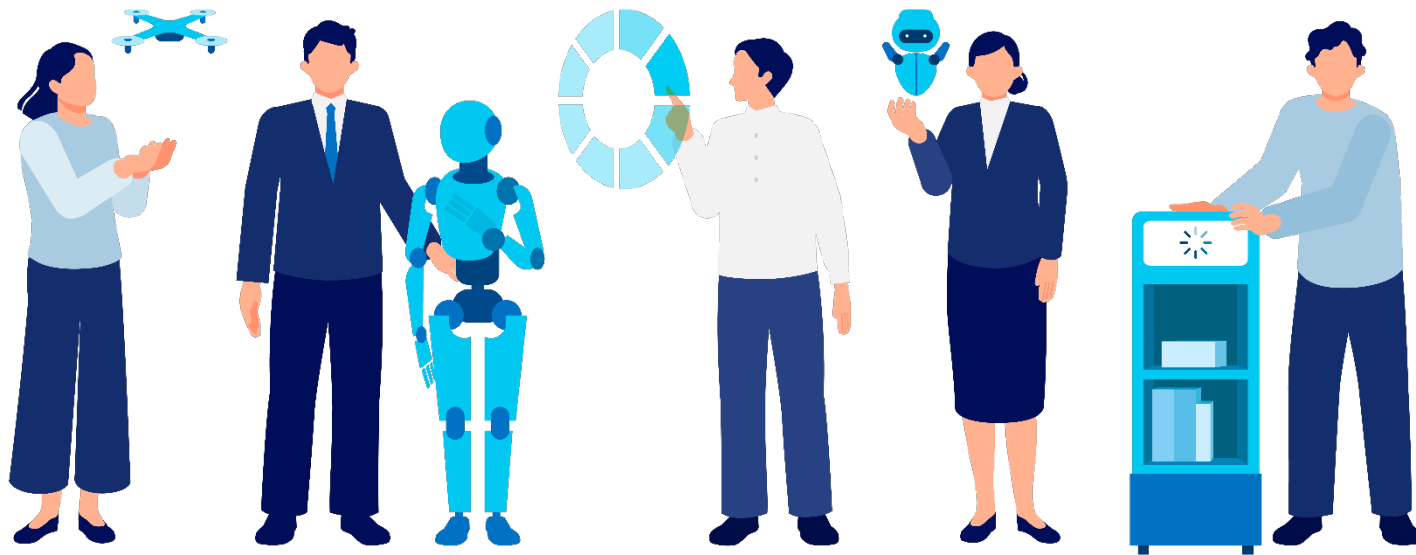
グループビジネスのグローバル化の拡大促進

- AI・機械翻訳が市場拡大を牽引する中、その構造変化に確りと対応
- テクノロジーを駆使した独自の自社開発プロダクツへの取り組み
- 海外を含む有力プレーヤー／サプライヤーとの業務提携等（含む買収、資本業務提携）

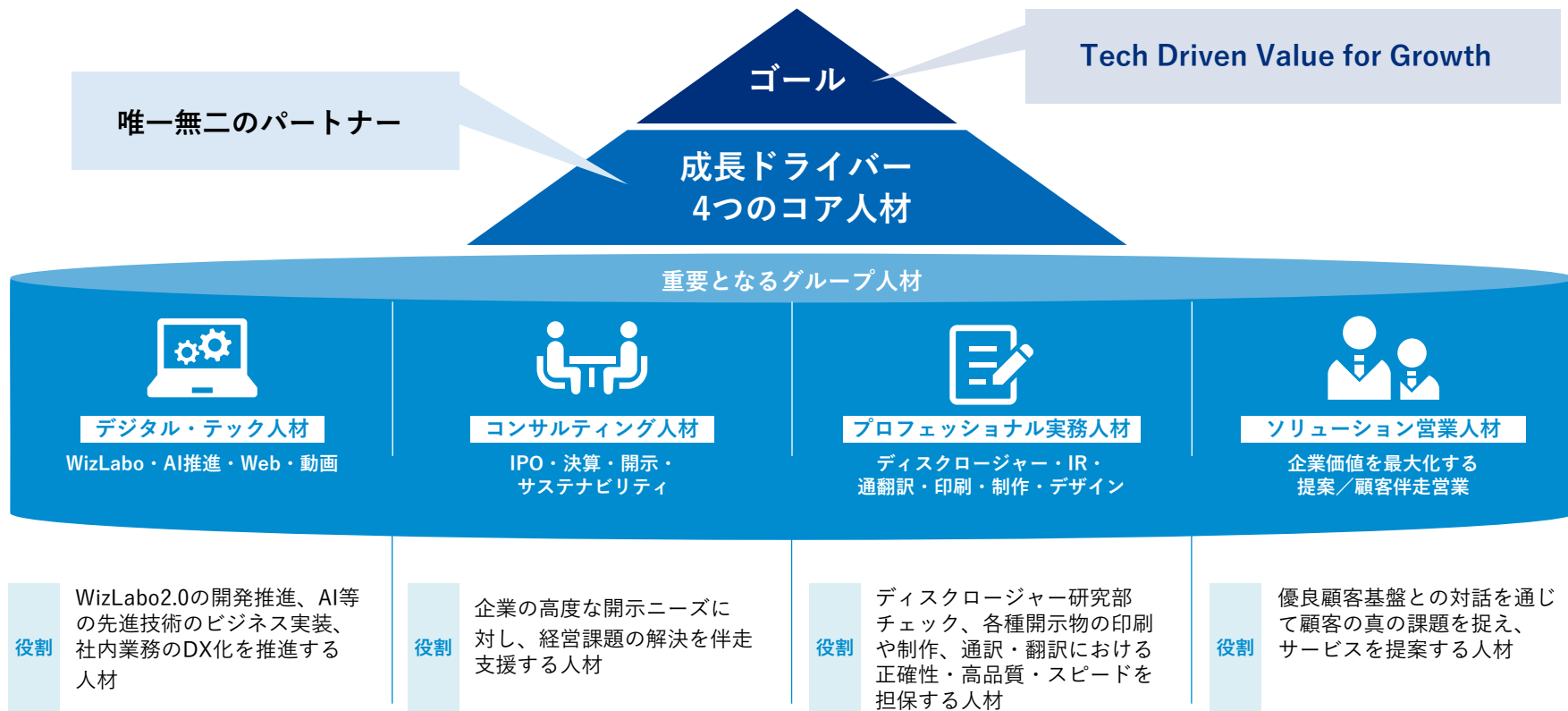


当社グループの高い専門性を担保するのは「人財」です。

あらゆる可能性と価値創造の中核資産と位置付け、全てのステークホルダーの求めに応え得る
プロフェッショナル集団であり続けます。



経営戦略と連動した目指す人材ポートフォリオ



価値創造を支える土台（ギャップを埋める「人材・組織基盤」）



追加施策

- 高い専門性を有する「デジタル・テック人材」、「コンサルティング人材」の確保にあたり、現在の幹部人材とともに体制強化に寄与する中核人材のキャリア採用やM&A等による獲得
- 並行して階層別・部門別研修等による人材育成や属人化を解消するナレッジの共有（知識の体系化・見える化等）、グループ会社間の人材交流、グループ採用へのシフト等を中長期的に推進し、適材適所かつ厚みのある人材層・体制を維持
- 当社グループを取り巻く環境変化を踏まえた社内人材の新たな適性、キャリアアップにつながるリスクリングの検討・支援

追加施策

- 各自の業務・専門性がグループの存在意義、社会にどのように貢献しているのか、説明会や部署横断プロジェクト等の対話環境を通じて共感を生み出し、エンゲージメントの向上につなげていく
- 「当社独自の週休3日制度」の導入・実施により、能力を遺憾なく発揮するために重要となる従業員の健康、心身のリフレッシュや自己研鑽の時間につながっていく新しい働き方へ挑戦
- 今後3年間年率5%以上の賃上げを目指す

04

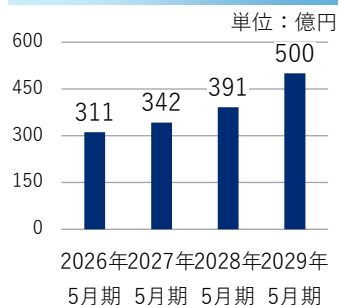
財務／非財務目標（KPI）

04 財務／非財務目標（KPI）

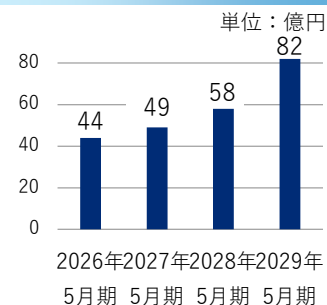
1. 財務（KPI）

	2026年5月期	2027年5月期	2028年5月期	2029年5月期
	実績	業績予想	計画（目標）	計画（目標）
売上高	311億円	342億円	391億円	500億円
内訳：ディスクロージャー関連事業	228億円	252億円	302億円	407億円
内訳：通訳・翻訳事業	83億円	90億円	89億円	93億円
営業利益	44億円	49億円	58億円	82億円
営業利益率	14.2%	14.3%	14.8%	16.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	33億円	35億円	41億円	57億円
ROE	10.8%	10.5%	11.8%	15.3%

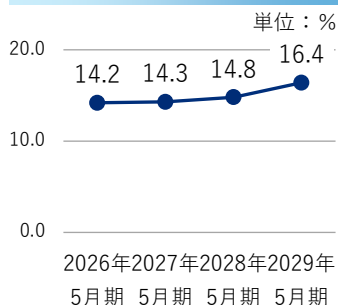
売上高



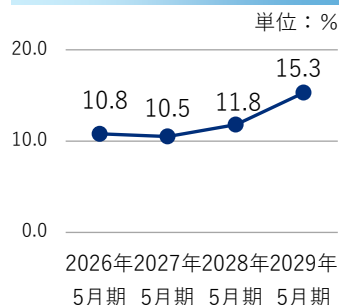
営業利益



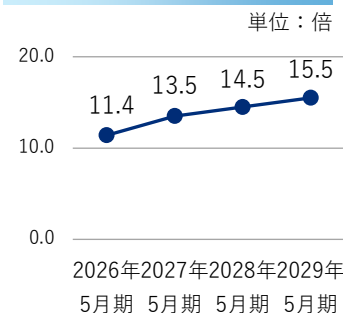
営業利益率



ROE



PER



2. 非財務（KPI）

	マテリアリティ・テーマ	アクションプラン基本方針	非財務KPI	財務・当社の強みへの影響
1	専門知識の蓄積、研鑽と発信 ■ 最重要 専門知識の研鑽 ■ グループ各社の特性を活かしたイノベーションの実現 ■ お客様への適時適切な情報提供	■ 専門性を重視する風土、プロフェッショナル意識の浸透とその育成を支援する仕組みを事業基盤とし、それを持続的に発展させていく。	● 一人あたり年間人材育成投資額 ～原則として前年度を上回る額 (前年度実績：24,166円)	◆ 創業以来培ってきた高い専門性による顧客基盤の強化、ブランド力の向上 ◆ 専門能力の向上による人的資本の強化、パートナーとの信頼性向上によるネットワーク資産の強化
2	ガバナンスの深化 ■ 最重要 コンプライアンスの徹底 ■ 情報セキュリティの強化 ■ グループガバナンスの確立	■ 優良な顧客資産は、当社グループの誠実性、倫理観への信頼が基盤であることを認識し、インサイダー取引、不正等を撲滅し、コンプライアンスを徹底する企業風土を維持し続ける。	● インサイダー取引を含む重大な法令違反発生0件の堅持	◆ 誠実性、倫理観を担保とした当社への信頼性向上による顧客基盤の強化、ブランド力の向上 ◆ 情報資産の拡大によるサービス品質の向上
3	従業員の幸せ ■ 最重要 お互いを認め合い、互いに成長できる職場環境づくり ■ 生産性を最大化する多様な働き方の推進 ■ ウェルビーイング（Well-being）の実現	■ 人的資本の維持と持続的な成長は当社グループの持続的な成長の根幹であり、多様な人材が互いに協力し、皆が成長を志し実現する環境を構築する。	● 年次有給休暇取得率70%	◆ エンゲージメントの向上による労働生産性の向上 ◆ 優秀な人材の確保・雇用により、多様なニーズに応えるサービス提供体制を強化

2. 非財務（KPI）

	マテリアリティ・テーマ	アクションプラン基本方針	非財務KPI	財務・当社の強みへの影響
4	環境問題解決に向けたソリューションの創出 ■ 最重要 環境問題に取り組む企業への支援 ■ 限りある資源の有効活用 ■ 気候変動問題への対応	■ 地球環境の維持が当社グループの事業環境である資本市場の持続的な成長、日本経済のグローバルにおける発展の基盤であり、当社として環境負荷低減に努めるとともに、日本経済全体の環境問題解決に対し当社ビジネスとして貢献していく。	● CO2排出量（Scope1.2の確実な削減） ・ 2050年カーボンニュートラル（実質排出ゼロ） ・ 2031年3月期のGHG排出量を2024年3月期比46％削減	◆ ステークホルダーからの信頼の獲得による顧客基盤の強化、ブランド力の向上 ◆ 社会的責任の進化によるパートナーとの信頼関係向上、人的資本の強化
5	ステークホルダーとの共栄 ■ 最重要 ステークホルダーとの対話推進 ■ サプライチェーンマネジメントの深化 ■ 公共セクター（政府関係団体等）との協働による価値創出	■ 優良な顧客資産は、当社グループの誠実性、倫理観への信頼が基盤であることを認識し、インサイダー取引、不正等を撲滅し、コンプライアンスを徹底する企業風土を維持し続ける。	● 年1回の顧客満足度調査の実施	◆ 顧客の業務効率化、正確性向上に伴う当社信頼性、ブランド力の向上 ◆ 顧客ニーズに応える人的資本の強化、ネットワーク資産の強化



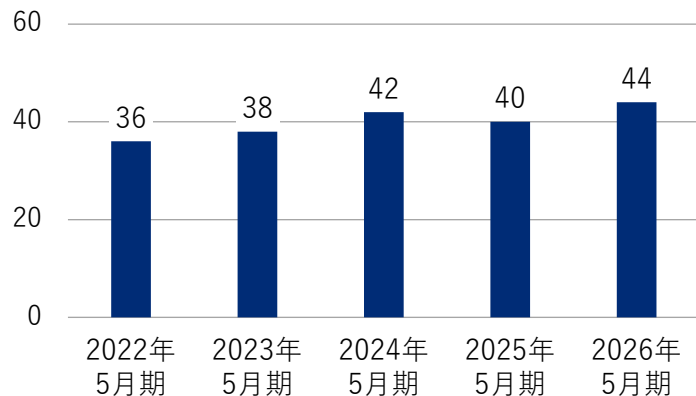
05

資本政策と株主還元

当社グループにおける資本政策と株主還元の概要

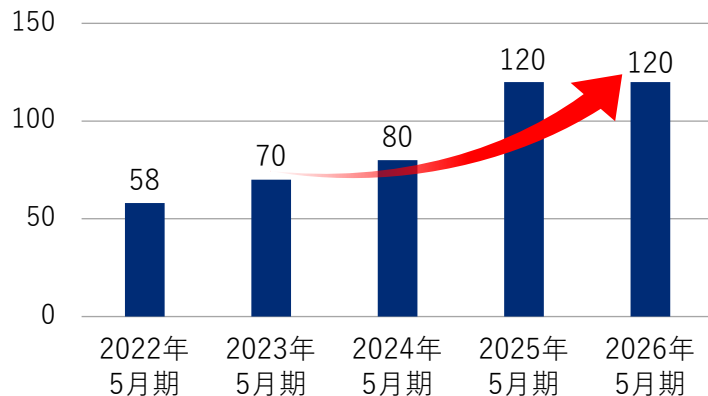
営業利益

単位：億円



1株当たり配当金

単位：円



71.4%

増

株主還元
継続強化

前中計期間中も安定した収益基盤と成長領域への投資により売上高・利益ともに概ね計画通りに推移し、結果、期間中の増配率は7割を超え、株主に対する安定配当を実現しました。新中計期間については、

1. 規律ある資本政策のもとM&Aを通じて積極的な成長投資を推進し、更なる付加価値の創造と企業価値の向上を目指します
2. 更なる株主還元の強化を目的とし、新たにKPIとしてのDOEを設定します
3. 配当性向については、これまでの「安定配当／50%程度」から大きく軌道修正を行い、株主の求めに応じてまいります

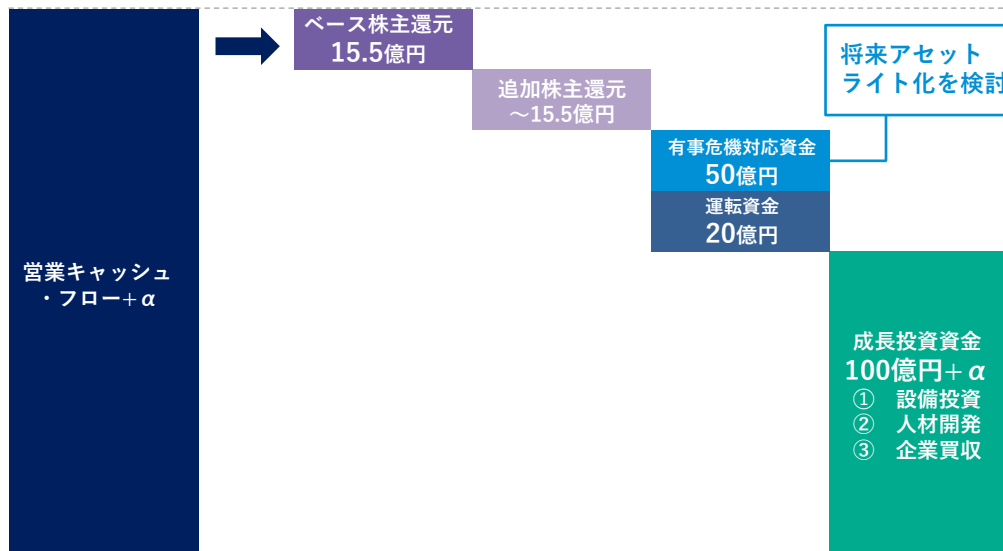
資本戦略方針

持続的な企業価値向上を目指し戦略的且つ機動的に資本を配分、規律ある成長投資とフレキシブルな株主還元の両立を目指します。

- 資本コストと株価を意識した資本政策のもと、ROIC重視のM&Aを軸とした成長戦略へ資本集中
- 株主還元については、あらゆる可能性と手段（例：本中計期間中の記念配当や株主優待制度の再開、自社株買い等）を検討の選択肢として最適化
- 新たに積み上がる営業CFは状況に応じてフレキシブルに還元

原資225億円

初年度予定配分



株主還元

強固な財務基盤と今後の営業キャッシュ・フロー（計画）を踏まえ、従来の「安定配当」から「フレキシブルな株主還元」へ軌道修正します。配当運営については今年度よりKPIとしてのDOEを導入し、将来の経営環境を踏まえた上で、あらゆる選択肢を排除せずフレキシブルな還元政策を推進し株主の皆さまの求めに応じてまいります。

成長投資

成長投資資金をリアルオプションと位置付け、M&A等を有効に活用し、将来に亘る企業価値向上の原動力として積極投資を推進します。特にM&Aは規律ある運営を原則とし、資本コストを十分に意識した成長投資を推進します。

経営基盤の強化

生産設備等の更新・拡充、DXによる業務効率化推進、人的資本への投資を推進し、事業の持続可能性を高めてまいります。

05 資本政策と株主還元

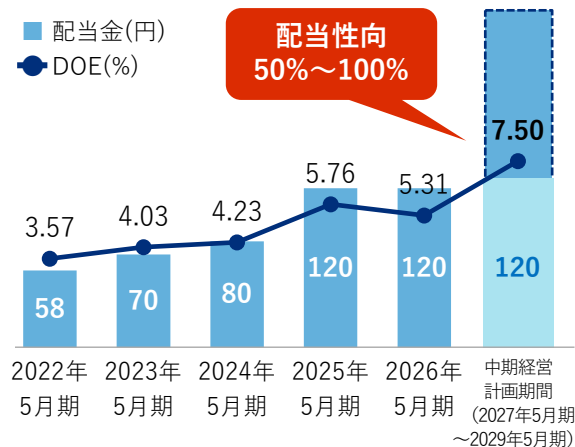
株主還元

基本方針

株主への持続的な利益還元を最重要経営課題のひとつと位置付け、業績と資本状況に照らしたフレキシブルな還元政策を推進

配当性向の見直し

従来：安定配当 → 配当性向50%程度
今後：フレキシブルな配当 → 配当性向50%～100%
(併せてDOEを導入し7.5%以上を目安に運営)



成長投資

基本方針

資本コストを意識した規律ある運営のもと、事業基盤の更なる拡充と企業価値向上に資する分野に積極投資

主な戦略投資領域

- WEB事業、ブランディング事業、メディアソリューション事業の拡大
- WizLaboの開発・高度化（チェック精度の向上・自動化率向上・データ収集機能の拡充・非財務情報収集・開示領域への本格進出）
- 人的資本価値の最大発揮につながる職場環境への投資（部門連携・業務効率化・品質の安定的向上）



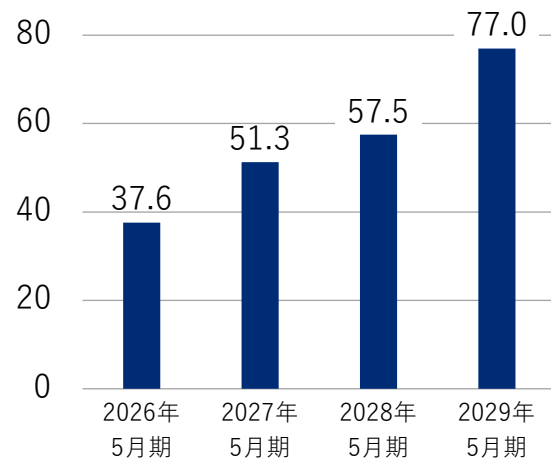
新たなキャッシュ・フローの創出

基本方針

新たな顧客と付加価値の創造を推進し、成長投資と株主還元の強化を両立

想定営業CFイメージ

単位：億円



【お問い合わせ先】

(株)TAKARA & COMPANY コーポレート企画部

Tel : 03-3971-3742



TAKARA & COMPANY

The background is a photograph of a city skyline at dusk or dawn. The sky is a deep blue. In the foreground, there are numerous colorful light trails from traffic, primarily in shades of blue, cyan, and magenta, creating a sense of motion. The Tokyo Skytree is visible in the center of the skyline.

Tech Driven Value for Growth